

安次富 隆 (Ashitomi, Takashi) 生産デザイン学科 プロダクト助教授

旅程

2002.09/02-11/27	11/28-12/05	12/06-12/08	12/09-12/13	12/14-12/21	12/22-2003.01/07	01/08-01/27
Boston (USA)	Berlin (Germany)	Dessau (Germany)	Weimar (Germany)	Frankfurt (Germany)	Copenhagen (Denmark)	London (UK)

訪問先

教育研究機関

- 01 MIT(Massachusetts Institute Technology) Media Laboratory (Boston / Sep.2 - Nov.27)
- 02 バウハウス大学 | Bauhaus University (Weimar / Dec.12)
- 03 オフエンバッハ造形大 | Produktgestaltung Hochschule fur Gestaltung Frankfurt (F) / Dec.18)

企業

- 01 ホンダ R&D ヨーロッパ | Honda R&D Europe (Frankfurt / Dec.20)
- 02 Experience Design Laboratory (Copenhagen / Dec. 23)
- 03 ロイヤルコペンハーゲン陶磁器工場 | Royal Copenhagen Porcelain Manufactory (Copenhagen/ Jan.6)

美術館 / 博物館

- 01 MIT Museum (Boston / Sep.4)
- 02 ボストン美術館 | Museum of Fine Arts (Boston / Sep.6, Nov.26)
- 03 ハーバード大学自然史博物館 | Harvard Museum of Natural History (Boston) / Sep.6, Nov.26)
- 04 ボストン・サイエンス博物館 | Museum of Science, Boston (Boston / Nov.25)
- 05 FOGG Museum (Boston / Nov.26)
- 06 ベルリン・バウハウス・ミュージアム | Bauhaus Museum, Berlin (Berlin / Nov.29)
- 07 ドイツ連邦会議事堂 | Reichstag, Deutscher Bundestag (Berlin / Nov.30)
- 08 ペルガモン博物館 | Pergamonmuseum (Berlin / Dec.1)
- 09 ハンブルグ現代美術館 | Hamburger Bahnhof Museum fur Gegenwart (Berlin) / Dec.1)
- 10 ベルリン・ユダヤ博物館 | The Jewish Museum (Berlin / Dec.2)
- 11 VITRA Museum (Berlin / Dec.3)
- 12 壁博物館 | Haus am Checkpoint Charlie (Berlin / Dec.3)
- 13 ケーテ・コルピッツ美術館 | Kethe-Kollwitz Museum (Berlin / Dec.4)
- 14 ベルリン・ドイツ技術博物館 | Deutsches Technikmuseum Berlin (Berlin / Dec.4)
- 15 バウハウス | Bauhaus (Dessau / Dec. 7)
- 16 マスターズ・ハウス | Master's Houses (Dessau / Dec.7)
- 17 デッサウ・自然史博物館 | Natural History Museum, Dessau (Dessau / Dec. 8)
- 18 ワイマール・新美術館 | Neues Museum, Weimar (Weimar / Dec.10)
- 19 ワイマール・市立博物館 | Stadtmuseum, Weimar (Weimar / Dec. 10)
- 20 ワイマール・バウハウス博物館 | Bauhaus Museum, Weimar (Weimar / Dec. 10)
- 21 ゲーテの家 / ゲーテ国立博物館 | Goethes Wohnhaus (Weimar / Dec. 11)
- 22 城(美術館) | StadtschloB (Kunstsammlungen) (Weimar / Dec.12)
- 23 チュールンゲン先史博物館 | Museum fur Ur- und Fruhgeschichte Thuringen (Weimar / Dec.12)
- 24 カールツァイス光学博物館 | Optisches Museum (Jena / Dec.13)
- 25 St.Catharine's Church (Frankfurt / Dec.15)
- 26 ドイツ建築博物館 | Deutsches Architekturmuseum (Frankfurt / Dec. 17)

- 27 手工芸博物館 | Museum fur Angewandte Kunst (Frankfurt / Dec. 17)
- 28 聖霊教会 | Heligandskirken (Copenhagen / Dec.24)
- 29 ニューカールスベア美術館 | Ny Carlsberg Glyptotek (Copenhagen / Dec. 28)
- 30 工芸博物館 | Kunstindustrimuseet (Copenhagen / Dec. 29)
- 31 デンマーク・デザインセンター | Denmark Design Center (Copenhagen / Dec.30)
- 32 トーバルセン彫刻美術館 | Thovaldsens Museum (Copenhagen / Jan. 3)
- 33 デンマーク国立博物館 | Nationalmuseet, Denmark (Copenhagen / Jan. 4)
- 34 デンマーク国立美術館 | Statens Museum for Kunst (Copenhagen / Jan.5)
- 35 大英博物館 | British Museum (London / Jan.10)
- 36 ナショナル・ギャラリー | National Gallery (London / Jan.12)
- 37 テート・ブリテン | Tate Briten (London / Jan.13)
- 38 ウェストミンスター寺院 | Westminster Abbey (London / Jan.13)
- 39 ロンドン・デザインミュージアム | Design Museum, London (London / Jan.14)
- 40 テート・モダン | Tate Modern (London / Jan.14)
- 41 Toy Museum (London / Jan.15)
- 42 ナショナル・ポートレート・ギャラリー | National Portrait Gallery (London) / Jan.15)
- 43 Serpentine Gallery : "Takashi Murakami " (London / Jan.16)
- 44 自然史博物館 | Natural History Museum, London (London / Jan.16)
- 45 ヴィクトリア&アルバート博物館 | Victoria & Albert Museum (London / Jan.18)
- 46 サイエンス博物館 | Science Museum, London (London / Jan.19)
- 47 ホワイトチャペル・アート・ギャラリー | Whitechapel Art Gallery : "Mies van der Rohe" (London / Jan.20)
- 50 The Wallace Collection (London / Jan.26)

その他

- 01 Newbery Str. (Boston / Sep.3,5, Nov.24)
- 02 ブランデンブルグ門 | Brandenburger Tor (Berlin / Nov.30)
- 03 ポツダム広場 | Potsdamer Platz (Berlin / Nov.30)
- 04 Sony Center (Berlin / Nov.30)
- 05 リンブルグ | Limbug (Frankfurt / Dec.21)
- 06 チボリ公園 | Tivoli (Copenhagen / Dec.23)
- 07 クリチャンボー城 | Christianborg (Copenhagen / Dec.29)
- 08 Stroget Str. (Copenhagen / Jan. 7)
- 08 Oxhord Str. / Regent Str. / Piccadely Circus (London / Jan. 10)
- 08 ロンドン・アイ | BA London Eye (London / Jan.13)
- 09 バッキンガム宮殿 | Bachingham Palece (London / Jan.24)

最先端プロダクトデザインスキルの調査研究] は、温故知新でおこなった

温故

プロダクトデザインの歴史調査 (過去 - 現代)

- ボストン美術館 (Boston)
- ベルガモン博物館 (Berlin)
- ベルリン・ドイツ技術博物館 (Berlin)
- チューリンゲン先史博物館 (Weimar)
- カールツァイス光学博物館 (Jena)
- 手工芸博物館 (Frankfurt)
- 工芸博物館 (Copenhagen)
- デンマーク国立博物館 (Copenhagen)
- 大英博物館 (London)
- ヴィクトリア&アルバート博物館 (London)
- サイエンス博物館 (London)
- パウハウス大学 (Weimar)
- ベルリン・パウハウス・ミュージアム (Berlin)
- パウハウス (Dessau)
- マスターズ・ハウス (Dessau)
- ワイマール・パウハウス博物館 (Weimar)
- ロイヤルコペンハーゲン陶磁器工場 (Copenhagen)
- ハンブルグ現代美術館 (Berlin)
- ワイマール・新美術館 (Weimar)
- デンマーク国立美術館 (Copenhagen)
- ナショナル・ギャラリー (London)
- テート・ブリテン (London)
- テート・モダン (London)

知新

プロダクトデザインの未来予測調査

- MIT (Boston)
- オフエンパッハ造形大 (Frankfurt)
- ホンダ R&D ヨーロッパ (Frankfurt)
- Experience Design Laboratory (Copenhagen)
- MIT Museum (Boston)
- ボストン・サイエンス博物館 (Boston)
- ドイツ連邦会議事堂 (Berlin)
- VITRA Museum (Berlin / Dec.3)
- ドイツ建築博物館 (Frankfurt)
- デンマーク・デザインセンター (Copenhagen)
- ロンドン・デザインミュージアム (London)
- Sony Center (Berlin / Nov.30)
- ロンドン・アイ | BA London Eye (London / Jan.13)

調査の結果見えてきた今後のプロダクトデザインの方向性を示すキーワードは

ボーダーレス

アート / デザイン / クラフトの境界

デジタル / アナログの境界

ローカル / グローバルの境界

補足

デジタル/アナログ

MITの石井裕助教授は、タンジブルビットというキーワードで、バーチャルなデジタル情報を物理的フィードバックをともなったリアルな情報を提供する装置を研究している。オффエンバツハ造形大学では、デジタルとアナログを統合的に扱う試みをスタートさせていた。具体的には、造形コースの学生が、NCマシンで荒削りした立体を手作業で仕上げていくなどである。前者はコンピュータテクノロジーという目に見えない技術を見えるものとする試みであり、後者は、数値制御された造形を身体性をともなった造形に活用する試みである。両者とも、デジタルかアナログかではなく、それぞれの特性を理解し活かそうとしている点が興味深い。

ローカル/グローバル

外国資本が入っていない日本の自動車メーカーはホンダだけになってしまった。その海外デザイン戦略拠点のひとつホンダR&Dヨーロッパでは、主として欧州市場の調査、組立て試験、アドバンスデザインを行っている。海外でも売れた車は、海外販売を意識したデザインよりも国内ユーザーを意識してデザインされた車が多いという。今回訪問した都市では、日本の食材や箸を使うこと、裸足での生活が特別なものではなくなっていると感じた。海外デザイン戦略では、相手のニーズに合ったデザインを提供し、世界を席卷したメイドインジャパンだが、よりローカルなものがグローバルデザインとして通用する時代に入っているのかもしれない。これは、情報や物質の加速度的流通により、世界全体が均質化したことへの反動にもみえる。

アート/デザイン/クラフト

ロンドンのビクトリア&アルバート博物館は、工芸を中心とした博物館である。そこに巨大なラファエロの絵が展示されている。これは、ラファエロが教会のタペストリー制作のために描いた巨大な宗教画だ。職人が分担作業できるよう、紙に描かれて分割して使用したようだ。つまりこの絵画は、見た目は他のラファエロの絵と変わらないが、現在はこれはデザインと判断されたために、美術館ではなく、工芸博物館に展示されることになったのではないかと。

デザインという概念ができあがったのは、イギリスの産業革命以降である。それから今日に至るまで急速にデザインも細分化された。プロダクトデザインもある明確な境界を持って存在しているデザイン分野の一つと考えられている。パウハウス最後の地、ベルリンのパウハウスミュージアムに展示されているデザインは、ほぼ明確に現在の建築とプロダクトデザインの呈をなしていた。ところが、パウハウス発祥の地、ワイマールのパウハウスミュージアムで見られるパウハウス初期の試みでは、アート、デザイン、クラフトの境界は曖昧だ。分野の境界は曖昧だが、それ以前のアート、デザイン、クラフトとの違いは明解な点にパウハウス運動の革命性がある。

プロダクトデザインをモノづくりと考えれば、石器時代にまで遡ることができる。当然のことながら、そこにはアート、デザイン、クラフトの境界はない。

ボーダレス・デザイン

インターネットによる爆発的な情報流通、バイオテクノロジー、ナノテクノロジー、ロボット(人工知能)など、カタチのないモノ、カタチが見えにくいモノ、生命とモノの境界を曖昧にするモノを相手にしている。これは、人類が産業革命以降のモノづくりとは異なる新たな段階に入っていることを示している。そこでは、今までのプロダクトデザインの手法は通用しないだろう。今回の海外研修では、これからのプロダクトデザインは、デジタル/アナログ、ローカル/グローバル、アート/デザイン/クラフトといった境界を越えたボーダレスのデザインを目指すことが必要であると強く感じた。